

特集

〜平成19年度施政方針〜

私たちが創りだす笑顔と自然あふれる元気なまち

今月は、平成19年度の施政方針をお知らせします。

「施政方針」は、市長が市政運営についての基本的な考え方や重点施策などを市民の皆さんにお示しするものです。

食彩・感動 いしのまき

合併3年目を迎える本年度は、市政運営の指針となる総合計画をはじめ、さまざまな新しい計画が姿を現し、各種計画に基づく本格的なまちなちづくりがスタートします。

新しい石巻市の市政運営を軌道に乗せる正念場であり、総合計画の将来像として「私たちが創りだす、笑顔と自然あふれる 元気なまち」を掲げ、その実現を目指して確実な一歩を踏み出すための「まちづくり元年」と位置づけます。

「市民の目線・市民の視点」に立った6つの項目を重点的に

本年度の市政運営に当たっては、基本構想の将来像の実現に向けての重点的施策として次の6つの項目を重点的に取り組みます。

(1) ともに創る協働のまち

多くの市民が地域のために活動しながら、地域の人々のさまざまな生活課題に対して、地域が一体となった取り組みが必要で、

また、危機的財政状況を克服するための効果的で効率的な行政改革を断行しなければなりません。

【具体策】

- ① 市民総参加による「市民憲章」作り
- ② 施設の統廃合計画の策定
- ③ すべての事務事業を総点検し、「引き続き行政が行うべき事務」と「民間で可能な事務」に再編・整理
- ④ 「職員定員適正化計画」に基づく、スリムな行政組織の構築
- ⑤ 財政の健全化を図るため、市税などによる財源確保
- ⑥ 成果重視の予算編成を行うため、行政評価制度の構築

(2) 個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち

合併により沿岸部や山間部、都市部など、さまざまな環境の学校を有すること

となり、地域の特性を活かした教育の推進や学校の適正規模・適正配置などが求められています。

【具体策】

- ① 時代の変化に対応した教育の推進に向け、学校教育のあり方や学校の適正規模・適正配置・学校施設の整備など、教育行政の指針となる「教育ビジョン」を策定

(3) 地域資源を活かして元気産業を創造するまち

地域の発展や活力は、地域それぞれが持つ特性を最大限に発揮できるかどうかのポイントとなります。

市民生活の質を向上させて、豊かさを実感できる社会を実現するためには、各地域における活力を市民とともに推進できる地域おこしの取り組みが必要とされています。



▲昨年の捕鯨100年祭

【具体策】

①「鯨フォーラム2007」の開催を通じて、鯨肉の利用促進や鯨食文化の啓発

②新産業の創出や起業化への支援などを図るため、産学官の連携を一層強化するとともに、異業種交流など企業間の連携を推進

③豊富な米・野菜・魚など、地場産品を活用した「食」をキーワードとした「食のまち・いしのまき」という戦略的な観光振興

(4)安心して健やかに暮らせるまち

今後想定される宮城県沖地震やその他の災害への対策、有事における対応などの体制の確立を図っていきます。

また、安心して子育てのできるまち「石巻」を目指して、諸施策に取り組みしていきます。



▲町内会で行われている自主防災訓練



▲大橋一丁目に移転した消防本部新庁舎

【具体策】

①消防本部新庁舎を地域の消防・防災の拠点とし、総合的な防災対策に活用

②町内会や自主防災組織を中心とした防災ネットワークの充実

③「地域防災計画」の本年12月策定を目指す

④待機児童の解消を目指した保育所の定員を拡大

⑤子育て支援センターの新規開設や事業充実のための職員の増員

⑥子どもの自主性を尊重し、その権利を保障することを目的とした「子どもの権利条例」の制定に向けて、「子どもの権利条例策定委員会」を設置

(5)心ゆたかな誇れるまち

ごみ処理に関する適切な管理を徹底するとともに、廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再利用(リサ

イクル)の「3R」を、地域のすべての人が一体となつて、さらに推進していくことが求められています。

また、市民一人ひとりが本市の歴史や文化芸術に関心を持ち、地域に根ざした伝統文化を保護・保存し、次世代に継承することが重要です。

【具体策】

①ごみ処理機などの購入費補助金や再生资源集団回収実施団体報奨金などにより、ごみの減量化を推進

②「一般廃棄物処理基本計画」、「生活排水処理基本計画」を策定し、ごみに関する適切な管理や適正な処理の推進

③文化芸術活動を推進し、貴重な歴史的遺産を後世に継承していくための指針となる「文化芸術振興基本方針」を策定



▲雄勝石の工芸文化を伝承する硯工人

(6)地域の個性が輝き融和するまち

合併後においても、従前の市民バスや福祉バスなど地域独自の交通施策を継続していますが、それらの検証や再編、新たな交通手段の導入など、新市にふさわしい交通体系の確立が求められています。高齢者や学生など地域の実情に応じた交通形態や持続可能な運営体制について、市民や民間企業などと共に考え、支えあう交通システムを確立する必要があります。

【具体策】

①地域の実情に応じたバスなどの公共交通通サービスを提供するため、「(仮称)石巻市地域公共交通会議」を設置

「食彩・感動 いしのまき」

今回策定した総合計画を踏まえ、本市のキャッチフレーズとして設定しました。

石巻には、三陸の海ととれる「海の幸」と、米や野菜などの「里の幸」による「食」、そして春の新緑に彩られる山々や夏の日差しにきらめく三陸の海、秋の実りに輝く黄金色の田園と、冬の寒風にゆれるヨシ原など四季折々の自然が織り成す「彩り」があります。

人々は、自然の恵みからいただく食材の新鮮さと味に心躍らせ、自然の雄大さと優しさに心を打たれるということを表現しています。